

第29号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 霊亀山 九島 禅院
 〒550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住職 奥田啓知(智證)

大阪にオリンピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀まであと一年!

成人式を考える

おとなになれ新成人

成人式での講演は二度としない。早大教授(エジプト考古学者)吉村作治さんが、仙台市での成人式で、あまりのマナーの悪さに激怒され、予定外の「怒りの宣言」をされました。

新聞などの報道によりますと政令都市・仙台の二十歳の式典には、約九千五百人もの新成人が市体育館に詰めかけました。市職員がハンドマイクで何度も呼びかけ、やっと会場に入ったのは半数以下で、巨大会場はガラガラ、式の進行にお構いなしに入退場を繰り返して、禁止されている携帯電話をかけたりとマナーの悪さが際立っていたとのこと。途中で腹に据えかね「五年前、埼玉の成人式で講演したときは、話ができる状態ではなかった。今もそれに近い。あと何分話せばいいんでしょうか」と激怒。冒頭の「怒りの宣言」をされ予定より十分早く締めくくったそうです。

昔は、男子の成人を「元服(げんぶく)」といいました。元

服の「元」は首(こうべ)で、「服」は冠の意。元服の以前は童(わらべ)と呼ばれて頭頂をあらわにしていた男児に、成年の象徴として冠を加えるのが元服の儀式でした。

元服の年齢は一定せず、十歳ころから十五歳ころまでにするのが一般的でした。早くは三歳や五歳、遅くは十七歳や二十歳の元服もあったそうです。また元服すれば、それまでの童名を改めて実名を名乗り、社会的に一人前となったのです。

「国民の祝日に関する法律」には、一月十五日の成人の日を「大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます」日だと記されています。今の青年たちに「みずから生き抜こう」なんて気持ちがあるのか、疑問です。また、行政が画的に、成人式を行なう、同窓会がてらにやってくるそんな青年たちに難しい話を聞かせようとするのが、そもそも間違いないでしょう。

自分の主体性を確立するのが



講演する吉村作治教授

「成人」の条件ならば、今のように、満二十歳になれば十羽一絡(から)げで全員を成人にしてしまう成人式ではなく、むかしのように、ばらばらのほうがよいように思います。それぞれの家の事情や、その子どもが成長にあわせて成人させるほうがよいのではないかと。

平安時代には、元服の夜に女子の添伏者(せきふし)と同衾(せきん)する風習があり、江戸の庶民のあいだでも、元服した者が先輩に連れられて妓楼(きろう)に遊びにいったそうです。その重要な部分の欠落した現在の成人式は、彼らにとっても、気の抜けたビールに等しいし、世界各国の成年にある兵役の義務が、日本の若者にはないのも若者を「成人(おとな)」にさせない原因かもしれない。憲法上できないなら、兵役の義務に代わる、平和国家にふさわしい社会奉仕の義務を課せることを考えるべきだと思います。

黄檗宗第八次訪中団報告

古黄檗禅堂落慶法要

黄檗宗第八次訪中団報告を、黄檗宗報第四百二十号より転載しました。中国福建省福清市にある黄檗山萬福寺は、黄檗宗の宗祖隠元禪師のおられた寺院で私も黄檗宗の故郷といえます。里帰りした日本僧の胸裏には感慨深いものがあります。今回復興されたことは慶賀にたえません。

中国福建省福清市の黄檗山萬福寺は、我が黄檗宗の祖山であり、一九七九年に第一次訪中団が結成されてより、今回で第八次を数える。

一九九〇年、中国仏教協会会長趙樸初先生始め、中国國務院や福建省仏教協会・福清市宗務局等により「黄檗山萬福寺（古黄檗）修建委員会」が発足し、国家の事業としてその復興が決定、実施され今日に至っている。日本黄檗宗は、訪中の都度、古黄檗や福清市宗務局より、この事業に対する資金の協力要請を受けて、それに答えるべく募財にに取り組む、懸案となっていた禅堂の再建も成り、落成慶讃法要を行う為に、第八次訪

中団が結成された。

訪中団は、林文照管長、魏下を名譽団長に、赤松達明宗務総長が団長、山本智文宗会議長が副団長にそれぞれ就任し結成された。また、今回は社団法人「日本煎茶道連盟」の協力を仰ぎ、中澤弘幸黄檗売茶流家元が連盟を代表して副団長に就任された。

十一月十八日、福州へ着いた訪中団一行は、約百五十人の中国公安に警護されまさに国賓級の待遇である。同日、福清市主催による歓迎夕食会が開かれた。管長以下、宗務総長をはじめ訪中団役員は禅堂再建のため再三にわたり福清を訪れ、市政府及び宗務局と交渉に係わってき

た。その中で両者は固い絆が生まれ、歓迎会での再会を大いに喜んだ。邱玉清主席のスピーチからもその友情の深さがうかがわれた。管長以下が挨拶のなかで主席のお腹を布袋尊に諭えると、会場は笑いに包まれ、一段と和やかな雰囲気になった。

翌十九日、訪中団は福清市から約四十分かけて古黄檗山萬福寺に向かう。パトカーに先導され又辻々には公安が立ち、我が一行は大いに市民の目を引いた。人々は立ち止まり「いったい、どんな賓客が訪れたのか」と興味深くうかがっているようだった。全てが新しい古黄檗山萬福寺の総門前に到着。一斉に爆竹が鳴らされ昇住職以下、約二十名の僧侶が当地の作法に則り出迎えてくれた。訪中団も知客を務める中澤秘書長を先頭に、僧侶・檀信徒等約九十六名が整然と並び、中国僧侶とともに総門をくぐった。

放生池の橋を渡り、三門をぬけ、天王殿に至る伽藍の配置は日本の萬福寺と同じである。



天王殿に整然とむかう日中僧侶方

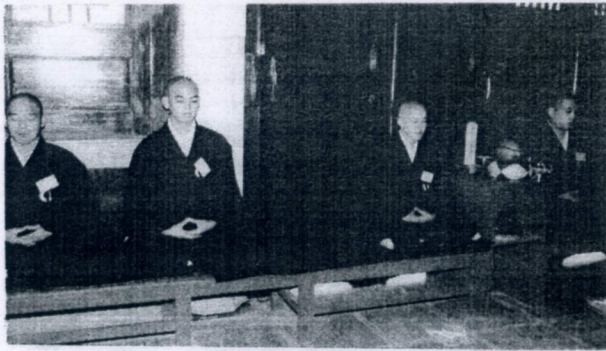
る日本より一回り大きな布袋尊像に昇住職が三拝、拈香続いて管長以下が三拝、拈香日中それぞれの所作は、全てが同一ではないが、確実に同じ根を持つ作法であることは容易に想像できる。

大雄宝殿、隠元記念堂と晋み、参拝するうちに、日中両国の僧俗に一体感が生まれていく。いよいよ禅堂に入る。まず古黄檗僧侶により法要が行われる。「楊枝浄水・」の読

大阪にオリンピックを！

九条に中華街を！

二十一世紀まであと一年！



完成した禅堂で坐禅する日本の雲水

経が始まると、日本僧の目が輝きを増した。この後に行う私たちの法式そのものである。読経がすすむにつれ、日本僧も自然と経文を口ずさんでいた。国境を越え、風俗・習慣を越え、四百年の時を越えて日中の仏法が一つになった瞬間である。続いて日本僧による落慶法要。管長猥下が禅堂落慶の香語を唱えられ、宗務総長が洒水をされた。読経が始まると今度は私たちに中国僧たちがあわせてくれた。この感動は言葉にはできない。無事法要が終わる。鄭利忠宗

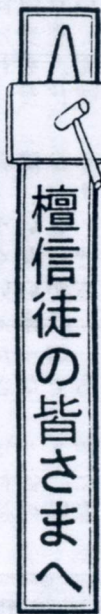
平成十二年（西暦二〇〇〇年）は、当院御開山龍溪禪師ご水定、三百三十年にあたります。当院の創建は、寛永年間（当地が開発された時、香西哲雲池山一吉の開基によって創建されました。（創建三百七十年位）

また、二十四代住職の弊師弘忠和尚の七回忌（平成十三年）をくりあげ、同時に祈念法要を厳修する予定です。

ついでには、報恩謝徳の慶讃事業を計画しております。詳細については、後日、総代会でつめて、次号で発表します。六月十一日（日）に執行を予

務局長、管長猥下の祝辞が述べられ、テープカット。日中の要人が交互に並びハサミをいれる。この禅堂から未来の大導師が育つことが楽しみでもある。

その後、我々は新禅堂で坐禅をし、答礼夕食会で再会を誓った。



龍溪禪師御水定三百三周年 平成十二年六月十一日祈念法要決定

定しております。

檀信徒の皆様は温かいご支援をお願い申し上げます。

○開山座像を復元される

昨年の水灯会（お施餓鬼法要）で、披露しましたが、来年の慶讃法要で入魂開眼ができるように、当院ご開山龍溪禪師の座像と禅宗始祖達磨大師座像が完成しております。

両像とも、戦災前の当院にあったものですが、この度、京都の大仏師松本明慶師にお願いして、勅願寺院正明寺に安置されている、龍溪禪師の座像を模刻して頂きました。同像は、後水尾法皇さまが、

響き会う心と心
春無限
俊一山

当院檀家、福島区在住の故山田俊一（平成十年七月一日逝去）さんの遺作です。

○お彼岸に歌いましょう

当院の山門会（彼岸法要）の法話として、友人の中瀬古秀次郎氏に「ボランティアのころ」と題して講演をお願いしています。

氏は当院修養会でビデオ撮影にご支援を頂いています。事業の傍ら、障害者問題に理解が深く、献身的に係わられています。ギターも得意で、住職と一緒にフォークソングを歌う仲間ですが、障害者支援の歌も披露する予定です。

**円通宗統禅会
ご案内**

毎月18日（観音さんのご命日）
午後6時半～8時半

場 所 当院本堂と坐禅堂
坐禅指導 黄檗山萬松院 奥田仁芳老師
提 唱 龍溪禪師「宗統録」

※坐禅しましょう！法話だけでも如何ですか！

二十一世紀にはいる平成十二年は「開山龍溪禪師御水定三百三周年」です！

奉 納 抄

編 集 後 記

永代供養冥加金三百万円奉納

(平成十一年一月二十六日)

昨年十二月十六日にご逝去された、故 佐野幸様（慈照院松室幸榮大姉）の追善供養にと、実妹増田兼子様より永代供養冥加金として金参百万円が奉納されました。佐野 幸様のご冥福をお祈り申し上げます。

▼小学校の学級崩壊が叫ばれています。想像以上に深刻な状態だそうです。荒れる中学生の問題、さらに成人式のマナーの悪さ、立川談志師匠の落語会では、最前列で居眠りして追い出された客が、主催者を訴えたそうです。

▼京都妙心寺で修学旅行生が坐禅体験をして、指導僧に警策で打たれ「嫌なら出ていけ」と怒鳴られたそうです。これに驚いた校長が抗議文を郵送、生徒の父母

も抗議の電話をかけたそうです。▼初場所で優勝した千代大海は、手のつけれない中学生だったそうです。地元大分の市長さんも「あの若者をよくぞ更生させたものだ」と驚いたといひます。▼タイでは、男性が二十一歳になると三週間、修行僧としてお寺で厳しい戒律のもと行を積むといひます。▼日本の社会の病巣の原因の一つに「規律」の軽視があるのでは。「礼に始まって礼に終わる」大相撲の世界が千代大海を立派に更生させたように。

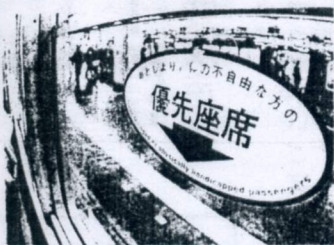
● シルバーシート

この度、阪急電鉄は高齢者や障害者向けの「優先座席」（シルバーシート）を廃止し、四月一日より「全席を優先座席と考える」というあたらしい方式に切り替えることを発表しました。また、同時に席を譲る対象を妊婦や乳児を連れた乗客にも拡大することも明らかにしました。

座席を譲ることを、牀座施（しょうざせ）といって、仏教では無財七施-財物がなくてもできる布施の一つに数えられています。布施とは、他人に金銭や品物を施すことです。しかし、俺がお前に恵んでやっているんだぞ、という気持ちが施者にあつてはならず、受者もまた施しを受けて義理を感じたり卑屈になつてはなりません。それに施物も清浄でなければならず、自分に不要になった物を施しても真の布施とはいへません。

満員電車で、お年寄りや身障者に座席を譲るのはだれにでもできる布施ですが、「年寄りがかわいそうだから、座らせてやる」という気持ちがあつては布施になりません。そうではなく、お年寄りに座っていただくほうの気持ちがいいから、座っていただくとうございまして」と、譲った者が心のなかで、そんな言葉を発する気持ちでなされたとき、それが真の布施になるのです。

シルバーシートは、昭和50年秋から、関西の鉄道に一斉に導入されました。各社とも、だいたい一車両あたり六座席程度、車両の連結部に設置されています。人口の高齢化をうけ、年寄り社会の到来を前に、そんな少数の座席では対応できず、今回です措置になつたようで、優先座席などなく、布施の精神を高揚したほうがいいと思ひます。



山門会 (春 彼岸 法 要)

3月23日 (火)

午後1時半より

ご先祖供養です。宗旨に関係はありません。ご回向のお申し込みをお願いします

講 演 ・ 中瀬古 秀次郎 氏

ご 案 内

二十一世紀にはいる平成十二年は、開山龍溪禪師御水定三百三十年です！